

公民科（現代社会）学習指導案

指導者 高山望

- 1 実践テーマ 生徒の主体的学習を促す授業の工夫～知的好奇心と双方向性を重視して～
- 2 日時 平成21年6月17日（水）第3時限（11：05～12：00）
- 3 場所 高校1年6組 教室
- 4 対象 高等学校 第1学年6組 全員 40名
- 5 単元名 社会とのつながり（環境と適応，欲求不満への対処）
- 6 本時の展開

(1) 本時の目標

- ア 環境と適応について，とくに青年期の特徴と関連付けながら考える。
- イ 欲求不満への対処について，事例をもとに理解する。

(2) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】 評価規準・(評価方法)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 前時に学習した青年期の特徴について振り返る。 ◎ ユングの理論によるタイプテスト(資料集65)に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 指名し，ノートを確認させる。 ◎ すばやく答えていくよう指示する。適宜机間巡回する。終了後に外向型・内向型について補足説明する。 	<p>【知識・理解】 説明を理解している。(発表)</p> <p>【興味・関心】 題材について関心をもって学習に向かっている。(観察)</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 適応とは何かを理解する。 ◎ 欲求には段階があることを理解する。 ◎ 欲求との付き合い方について理解する。 1) 葛藤について，3つのパターンを理解する。 2) 欲求不満について，代表的な防衛機制を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学校生活場面での例を挙げ，青年期の特徴との関連に目を向けさせる。指名して発表させる。 ◎ マズローについて簡単に説明する。特に自己実現欲求の充足について進路と関連させて触れる。 ◎ 各自が考えた具体例をノートに記入するよう指示する。 ◎ 指名し答えさせる。発表を元に全体で考えるよう誘導する。 ◎ 防衛機制に依存しすぎることは(適応行動)合理的解決の阻害につながる可能性もあることに触れる。 ◎ 行き詰ったとき，振り返ってみるポイントに触れる。(教科書65下) 	<p>【技能・表現】 説明を理解して考察し質問に答えている。(発表)</p> <p>【興味・関心】 題材について関心をもって学習に向かっている。(観察)</p> <p>【技能・表現】 説明を理解して考察し質問に答えている。(発表)</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 青年期は，欲求をうまく表現・実現し，自分や社会のあり方を考えていく時期であることを確認する。 ◎ 次時の予告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 適応や青年期の心理についてさらに学びたい場合は書籍を探してみるよう指導する。 ◎ 前時学習したハヴィガーストによる青年期の発達課題に触れる。 	

※ 導入10分 展開40分 まとめ5分

7 授業参観者に見てもらいたいポイント

◎発問と具体的説明を通して，生徒の学習意欲と知的好奇心を高めることができているか。
 ◎教師からの一方的な説明でなく，生徒とコミュニケーションする場面を積極的に取り入れ，学級全体が参加する授業を展開しているか。